

機関番号：28003  
 研究種目：基盤研究（C）  
 研究期間：2008～2010  
 課題番号：20590529  
 研究課題名（和文）医療サービスを利用する高齢者による攻撃や暴力へのケアモデルの開発と有効性の検討  
 研究課題名（英文）Development and evaluation of a care model for the elderly patients' violence and attacks in health care settings  
 研究代表者  
 鈴木 啓子 (SUZUKI KEIKO)  
 名城大学・人間健康学部・教授  
 研究者番号：60224573

研究成果の概要（和文）：一般の医療機関で入院治療を受けている高齢患者から、看護職が受ける攻撃的行動や暴力へのケアモデルの開発を目指し、文献検討および臨床における参加観察および看護師への面接調査を実施した。その結果、個々の患者の身体的・精神的な状態の把握、いまだに満たされていない患者の身体的・精神的ニーズに関する継続的・体系的な情報収集とアセスメント、患者-看護師関係の促進、創造的なケアの試行、そして、患者の特異的な精神科的問題についての精神科医へのコンサルテーションと向精神薬の処方への検討、危機の段階に合わせた危機予防介入といったケアモデルを提示することができた。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to develop a care model for the elderly patients' violence and attacks in health care settings. Participant observation and interviews were conducted with expertise nurses. As a result, we have developed a care model for the elderly patients' violence and attacks in health care settings, such as: perceiving the patient's individualized pattern of physical and affective condition, collecting information systematically and serially about physical and affective needs unmet, creating relationships between the patient and nurses, making a trial of treatments creatively assumptions, consulting psychiatry about the patient's specific psychiatric problems and considering administration of psychotropic drugs and risk prevention interventions according to the stage of crisis.

## 交付決定額

(金額単位：円)

|        | 直接経費      | 間接経費      | 合計        |
|--------|-----------|-----------|-----------|
| 2008年度 | 1,744,368 | 523,310   | 2,267,678 |
| 2009年度 | 900,000   | 270,000   | 1,170,000 |
| 2010年度 | 900,000   | 270,000   | 1,170,000 |
| 年度     |           |           |           |
| 年度     |           |           |           |
| 総計     | 3,544,368 | 1,063,310 | 4,607,678 |

研究分野：精神看護学

科研費の分科・細目：境界医学・医療社会学

キーワード：高齢者 攻撃的行動 問題行動 ケアモデル 危険防止 危機予防

## 1. 研究開始当初の背景

近年、医療機関において心身の健康問題を抱え治療やケアを必要とする人々から、ケア

提供者が攻撃や暴力を受けるリスクが高まっている。中でも内科や外科、リハビリテーション病棟などの一般診療科における暴力

の発生率は、精神科病棟よりも高く、その内容も深刻なことが明らかになっている(鈴木, 2007)。

特に、高齢の入院患者は、認知症や精神障害が基礎疾患になくても、せん妄や混乱も起こしやすく、また、吸引やおむつ交換、食事介助、入浴介助といったケアを受ける側に心身のストレスのかかる日常生活場面において、攻撃や暴力の問題が日常的に起きている。医療現場における患者からの攻撃や暴力の問題については、医療安全面からの検討は近年さかんに検討されるようになってきているが、ケア技術やケアモデルの検討・開発については不十分である。

海外における実態や取り組みについての先行研究(Astrom S.ら 2004, Skovdahl K.ら 2004, Pulsford D.ら 2006, Bates Jら 2004, 関ら 2002)によると、患者の Challenging Behavior への日常的なケア技術に焦点を当てた研究は非常に少なく、患者のより高い QOL を目指すための効果的な介入方法の研究の推進の必要性が指摘されている。国際的にも、重要な課題であると認められているもの、焦点が当てられてこなかった (Department of Health of UK 2002)。このような国内外の状況からも、本研究に取り組み意義があるものと考えられる。

## 2. 研究の目的

本研究は、一般病棟での心身の健康問題を抱える高齢者から看護師が受ける攻撃や暴力へのケアモデルを開発し、その効果を検証を目指すものである。

## 3. 研究の方法

(1) 一般診療科に入院中の高齢患者による看護職への攻撃・暴力的行動への看護介入技術に関連する国内外の文献のレビューを行うことにより、効果的看護介入について明確化する。

(2) 一般診療科に入院中の高齢患者による攻撃や暴力の問題について優れた実践を行っていると評価された医療機関において看護管理者および看護職を対象に、高齢患者からの攻撃や暴力への効果的ケアについて面接調査を実施し、効果的介入について明らかにする。

(3) 一般診療科に入院中の高齢患者による攻撃や暴力の問題について優れた実践を行っていると評価された医療機関において、攻撃的行動や暴力行為の見られた高齢者に対するケアの実際とその効果について参加観察を行った上で、看護記録を詳細に分析し、看護実践を質的記述的に検討する。

(4) 以上をもとに、ケア提供者双方にとっての安全性の考慮された実行可能で、かつ倫理

的にも問題のないケアモデルを明確化する。

## 4. 研究成果

(1) 文献検討および面接調査からのケアモデルの開発：

一般診療科に入院中の高齢患者による攻撃や暴力の問題について文献検討を行なった。その結果、ケアモデルについては認知症患者を対象とした Serial Trial

Intervention (STI) 介入モデル

(Kovach, R. C. et. al. 2006)、Need-Driven

Dementia-Compromised Behaviors (NDB) モデル

(Algase, D. L. et. al. 1996)、The

Conceptual Model of Progressively Lowered

Stress Threshold :PLST モデル

(Hall, et. al. 1987) が、有益であることが確認できた。

臨床における優れた実践を行っていると評価された医療機関において看護管理者および看護職を対象に、高齢患者からの攻撃や暴力への効果的ケアについて面接調査を実施した。平行して、攻撃的行動や暴力行為の見られた高齢者の 20 事例に対するケアの実際とその効果について看護記録を詳細に分析し、看護実践を質的記述的に検討した。以上の取り組みにより、実践現場における効果的ケアについての分析、資料の収集及び整理を終えることができた。

(2) ケアモデルの洗練：

攻撃的行動や暴力行為の見られた高齢者に対するケアの実際とその効果について 30 事例について、看護記録を詳細に分析し、看護実践を質的記述的に検討した。以上の取り組みにより、攻撃的行動のあった高齢患者について提供されていた効果的ケアについての分析を行った結果、高齢者からの攻撃的行動の深刻さに合わせて、①入院直後の不安や混乱を緩和する予防的ケア、②攻撃的行動のエスカレーションを防ぐケア、③高齢者看護師双方にとっての危険防止のためのケアが行われていることが明らかになった。また、いずれの段階でも、一貫して④継続的な心身の状態のモニタリング、⑤心身の状態を整えるケアが行われていた。この④と⑤のケア内容は、食事、睡眠、水分摂取、排泄といった身体の生理的機能を整えることが、患者の苛立ちや怒り、不安、混乱を緩和するための基本的に重要な実践内容であることを示している。また、上記のケアには精神科看護における危機予防的看護実践技術が応用されており、その基盤には、攻撃的行動が看護師の心身および看護の質に重大な影響を及ぼすという認識があることが明らかになった。

(3) ケアモデルの妥当性の検討：

文献検討および臨床における優れた実践を

行なっていると評価された医療機関における高齢患者からの攻撃や暴力への効果的ケアについての検討をふまえて作成したケアモデルを明確にした。その結果、ケアのプロトコールとしては、①個々の患者の身体的・精神的な状態の把握、②いまだに満たされていない患者の身体的・精神的ニーズに関する継続的・体系的な情報収集とアセスメント、③患者-看護師関係の促進、④仮説に基づいた創造的なケアの試行、そして、⑤患者の特異的な精神科的問題についての精神科医へのコンサルテーションと向精神薬の処方への検討が上がった。また、危機予防的介入としては、高齢患者の攻撃的行動の深刻さに合わせて、通常の状態から、患者の不安やいら立ちが強まり、さらに患者自身および看護師への危険性が高まる段階に合わせて、①患者の不安や混乱を緩和する介入、②患者の攻撃的行動を予防する介入、そして、③患者および看護師への危険性を回避するための介入の3パターンに整理された。

以上は、攻撃的行動や暴力行為の見られた高齢者の50事例に対するケアの実際とその効果について看護記録を詳細に分析し、看護実践を質的記述的に検討した結果から、導き出したものであるが、これにより導かれたケアモデルについて臨床の熟練看護師および管理者にその有効性について検討を行った。臨床看護師からはケアモデルとして活用できるという評価を得ることができた。いくつかの課題も残った。今後、さらに事例の分析を重ね、効果的介入方法を明確化していく必要があるものと考えている。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計8件)

①鈴木啓子：医療者間の暴言や暴力被害の問題と対策、医療安全、26、2011、86-90.

②鈴木啓子：高齢患者による攻撃的行動や暴力への効果的ケア—看護実践の分析から考える—、医療安全、25、2011、86-92.

③鈴木啓子：一般医療機関を利用している高齢の患者による攻撃的行動や暴力の理解と対応—事例から考える—、医療安全、24、2011、96-100.

④鈴木啓子：院内暴力と組織的対策—危機予防・危険防止のための対策、医療安全、23、2010、96-100.

⑤鈴木啓子：患者からの攻撃や暴力被害に遭ったスタッフへの支援、ナースマネジャー

Nurse Manager、11(6)、2010、10-18.

⑥鈴木啓子：“暴力・攻撃的行動を示す高齢者に対する効果的ケア”看護学雑誌 73(7)、2009、40-50.

⑦鈴木啓子、石野麗子、永田美和子、大城凌子、森田恵子、他：“患者からの攻撃的行動に対する効果的看護実践の検討—精神科看護経験を有する熟練看護師への面接調査より—”名桜大学紀要 14号、2009、257-269.

⑧鈴木啓子、大城凌子、永田美和子、石野麗子、金城祥教：“患者からの攻撃的行動への看護実践を支える看護管理の検討”名桜大学紀要 14号、245-256 (2009)

[学会発表] (計5件)

① Keiko Suzuki, Reiko Ishino, Miwako Nagata, Masaru Irei, Ryoko Oshiro: The clinical competencies of expert nurses caring for elderly inpatient' challenging behavior in Japan, 2011 International Council of Nurses Conference, 6/5/2011, Valletta, MALTA.

②鈴木啓子、石野麗子、永田美和子、河内俊二、大屋浩美、金城祥教：患者からの攻撃的行動に対する効果的看護実践に関する研究、第3回医療の質・安全学会(東京)、2009年11月23日.

③鈴木啓子、永田美和子、大城凌子、金城祥教：高齢者からの攻撃的行動に対する熟練看護師による効果的看護実践とそれを実現する看護管理について、日本看護研究学会第13回九州、沖縄地方学術集会(佐賀)、2009年9月.

④ Keiko Suzuki, Miwako Nagata, Ryoko Oshiro, Yoshinori Kinjo: A study on effective care for elderly patients' attacks on nurses. The 1st International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, 19/09/2009, Kobe, JAPAN

⑤鈴木啓子、石野麗子、永田美和子、大城凌子、金城祥教：攻撃的行動に対する熟練看護師による効果的看護実践について、第28回日本看護科学学会(福岡)、2008年12月.

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

鈴木 啓子 (SUZUKI KEIKO)

名桜大学・人間健康学部・教授

研究者番号：60224573

(2) 研究分担者

永田 美和子 (NAGATA MIWAKO)

名桜大学・人間健康学部・准教授

研究者番号：50381736  
石野 麗子 (ISHINO REIKO)  
聖隷クリストファー大学・看護学部・講師  
研究者番号：10340118  
(H20→H21：研究協力者)  
金城 祥教 (KINJO YOSHINORI)  
名桜大学・人間健康学部・教授  
研究者番号：00205056  
河内 俊二 (KAWAUCHI SHUNJI)  
静岡県立大学・看護学部・助教  
研究者番号：50381736  
(H20→H21：研究協力者)  
森田 恵子 (MORITA KEIKO)  
名桜大学・人間健康学部・講師  
研究者番号：60369345  
(H20→H21：研究協力者)  
伊礼 優 (IREI MASARU)  
名桜大学・人間健康学部・講師  
研究者番号：90336983  
(H22 から：研究分担者)